

## マゾレベリング(設定)

### マゾレベリング(設定)

注意：

コンセプト：『より強く、より弱く』

設定

ep1 - 4

ep5,extra

登場人物

主人公：

マリア：

レディ：

セリア：

世界観（主にコイノミシステムについて）説明

レベルと能力値：

コイノミシステム：

おまけ予定だったもの：レベルドレインRTA (Glitchless 100 %) タイム ( )

### 注意：

本作品の設定はいち音声作品にしては比較的文字量が多い上、質はともかく外面はSFファンタジーのような何かとなっているため、少々煩雑です。

さらに作者の努力虚しく、文章力が一般人のそれであることが文字斜度<sup>めのすべりぐあい</sup>に拍車をかけています。

これらの設定の9割は作品として大きな不整合を起こさぬように考え出された消極的なものであり、SF界限では既に擦り切れるほど使われた設定ですし、斬新なものではありません。それゆえ自己賛美のために見せたいのではありません。ただ、本作を形成する上で最低限なくてはならないものではあるために、皆さんが知る必要はありませんが、作者としては知らせておく義務はあると思ったので記したまでにあります。

それゆえ本書は懇切丁寧な解説書であることを放棄し、碌に整っていない走り書きで記載されていることお許してください。具体的に言えばですます調の統一がなされておられません。全てその場のテンションで記されております。

ただ走り書きではありますが、本書では本作品の現象で起きている事象についてはほとんど触れてあると思います。

しかし一点、レベルというのをどう定義するかという根幹の問題以外はですが…。したがって本作の最もファンタジーな部分はヨーロッパ的な牧歌的な世界観でも魔法の存在でも、魔物がいることでもシスターが僧侶と呼ばれていることでもなく、レベルという各生物の総合力を相対ではなく絶対的な値として算出されたものが存在し、それが各生物の下限と上限を定める生物の限界を示すものとして機能

しながら、さらには宇宙の原理法則の一つとして機能していることそれ自体に違いありません。

さて既に長々と記しましたが、これから下はこれより長文です。簡潔は理知の結晶であり、結果であるなら以下の長文は無駄の塊であり思考の過程であります。それでも本作を楽しんでいただけた方のうち、その無駄すらも楽しんでいただけるという方がいるならば、作品にとって気恥ずかしくも名誉なことであると思います。言うなればこの設定書は女性のムダ毛みたいなものかもしれないですね。好きな人は好きでありましょう。私自身アルティマニアを読むのが好きでしたので、先ほどの義務感は大義名分で、実際はそうした物好きな人が少しでもそういうわくわくする心持ちで読んでくれたらいいなと思い書いた次第であります。それでは未熟な拙文ではありますが、お楽しみください。

---

## コンセプト：『より強く，より弱く』

---

### 設定

#### ep1 - 4

よくある北欧西欧世界をモチーフにしたファンタジー世界。

名をエルオード。

かつて封印されたはずの魔族が突如として出現したことにより、人々の安寧は脆くも崩れ去る。

エルオードには子供から老人まで皆に知れ割っている伝承がある。それは闇より出でし魔の覇者が目覚め、人々が破滅の危機にさらされる時、選ばれし勇者が現れると。その勇者の右手の甲には心の臓を模した痣があり、その者が魔を鎮め人々に安寧をもたらす。というものだ。

真偽のほどは不明で、話半分に聞く者もいれば、藁にも縋る思いで勇者の到来を強く強く祈る者もいる。しかし、誰も彼も魔に怯える生活を一刻も早く終わらせたいという願いは共通していた。

#### ep5,extra

ep1-4まではまやかし、虚構の世界。

世界は既に魔族に支配され、人類は魔族の隷属する存在に成り下がっていた。勇者（先述の伝承とは異なる）と呼ばれる者もいた。

しかしレディとセレスに誘惑にされ、惨めにお射精。レベルを全て吸われて負け癖をつけられて、足音を聞いただけで射精するだけの哀れなマゾ人形にされてしまう。

希望の潰えた人類を魔族が支配するのにそう時間はかからなかった。

支配後は魔族が人類を支配あらゆる欲を満たす道具に成り下がった。様々な用途や形態が存在するが、それを全て逐一紹介しようとするのがアルティマニアもしくは某ヤブーになる上、そもそも後者に関してはあのように剛胆かつ流暢な描写をする力量もないので割愛する。

今作に限定して紹介すると、主人公は魔族の食糧として捕らえられた。様々な検査を受けた結果、レベルサキュバスの食糧になるのが最も適切だと判断された。そしてその食糧への適正、さらに主人公の絶妙な被虐体質故の飼育の難易度の特殊から、庶民向けの大量消費用の家畜ではなく、上級用の家畜に分類される。それからの流れは市場のセリを想像してもらえると想像に容易い。上級用と分類された家畜は、上級魔族たちが集まるセリにかけられる。そして近頃飼っていた家畜が使い物にならなくなっており、新たな家畜を探すためにセリに参加していたレディが主人公の家畜としての資質の高さを見ぬき、買い取った。

その後、家畜用レベル増強システム通称「コイノミシステム（後述）」によって飼育されカンスト状態になったところでレディとセレスに美味しくレベルを食べられてしまうというわけである。

要約すると、主人公はレディとセレスの家畜であり、ep1~4までは主人公のレベルアップのために作られた世界である。

## 登場人物

### 主人公：

#### ステータス概要（ep0時点）

しよく：ゆうしゃ

LV：5

HP：24

MP：9

力：21

すばやさ：51

みのまもり：17

たいりよく：10

かしこさ：3

うんのよさ：99

#### そうび

ぶき：はがねのけん

たて：はがねのたて

よろい：はがねのよろい

かぶと：なし

世界を救う主人公という設定を与えられて仮想現実には放り込まれた被虐体質を有する男性。現実世界では上級レベルサキュバス姉妹に買われ飼われ喰われるだけの存在。仮想世界内で勇者の証とされている右手の甲のハート型の痣はサキュバス姉妹の所有物であることを示すために付けられた識別印である。

サキュバス姉妹たちには名前と呼ばれず個体識別番号で呼ばれることがある。その番号は142857。（色々納得の手ごたえありの数字だが、本編で出番がなさすぎるのが悔やまれる…。だって呼びづらいでしょこれ…。）

### マリア：

#### ステータス概要（ep0時点）

しよく：そうりょ

レベル：85

HP：578

MP：782

力：147

すばやさ：236

みのまもり：572

たいりよく：788

かしこさ：902

うんのよさ：255

そうび

ぶき：けいじゅのつえ（慧樹の杖）

たて：テレジアプレート

よろい：うんべきのドレス（雲霧のドレス）

かぶと：テレジアティアラ

（※すべてカモフラージュまほうてきようじょうたい）

とくしゅのうりよく：オーガズムのしゅんかんをみせたもののレベルを一つあげる。

主人公の前に現れた、僧侶。レベルはep0の時点で85。回復・補助魔法全般が使えるが、攻撃は不得手。それなのにレベルが高いのは前職が遊び人で男遊びをしまくっていたから。また特殊な能力があり、性的絶頂の瞬間を見ると、絶頂した者のレベルを一つあげることができるという能力がある。<sup>1</sup>

人間性でいうと口調と僧侶という見た目も合間って物腰柔らかなお姉さまに見えるが発言は辛辣。基本的に主人公のことをクソマゾの童貞豚野郎と見下しているし、主人公にそのように接してあげると悦ぶと理解しているために包み隠さず主人公にぶつける。ただし見下してはいるがそこまで嫌悪は抱いていない。むしろ勇者と名乗るゴミのマゾ男を導けるのは自分以外ないと思っており、そうした使命感や母性に似た保護欲を持ち合わせながら主人公に付き添っていく。

見た目がレディ（双子なのでセレスもだが）と瓜二つなのはレディのデータをシステムに読み込ませて中身はシステム側で補完した分身（通称：パペット）であるからである。なので容姿こそ同じだが中身は全く異なる。なお先述のマリアのレベルアップ能力はレディのレベルを吸う能力を仮想世界内で再構築した結果である。

小話（マリアは森で何をしていたか。）：元々ep0で森にいたのは通りすがりの冒険者を誘惑し、誑し込もうと考えていたためです。

そしてもし強い人であれば性処理係になりながらいい感じに冒険に加わり、弱い人であれば一回気持ちよくさせた後、身ぐるみ全てを持ち去り次の獲物を探すつもりだったわけです。

つまり、勇者に会うまでマリアは前職の遊び人らしく行く当てもなく誰かに縋ることもなくふらふら生きていたというわけです。

遊び人というより<sup>バイニン</sup>玄人と言った方が適切ですかね…。怠惰を求めて勤勉に向かっていると見受けられるのでやはり適切な気がします…。

しかしマリア自身、無駄にレベルを積み上げてしまったためか、はたまた僧侶にジョブチェンジしたためかその生き方にどこか空虚な思いをどこかで抱えていました。（コイノミシステム側の都合と言えばそれまでなのですが…）とにかく、そうした虚ろな感情が勇者と名乗るにはあまりに非力な主人公の身ぐるみを剥がさないどころか自ら手を差し出し助けようとした理由なのでしょう。ちなみに僧侶にジョブチェンジしたのは、初対面の印象をよくするのと、仮に誰かと共に冒険するとしたとき回復役はめったなことで腐らな

い立ち位置な上に、自らの保身も確保されること、そして何より一番スケベだと彼女自身が思ったからです。

レディ：

#### ステータス概要

しょく：サキュバス（レベルドレイン種）

レベル：99

HP：728043

MP：680990

力：24810

すばやさ：78401

みのまもり：84993

たいりょく：64388

かしこさ：98492

うんのよさ：255

#### そうび

ぶき：ごくてんじょうげごくらいべん（極天上下獄雷鞭）

たて：なし

よろい：こわくこくてんこちょうのはごろも（蠱惑黒天胡蝶乃羽衣）

かぶと：たんそうめがみのかみかざり（噉相女神乃髪飾）

主人公の飼主そして勇者を使い物にならなくしたレベルサキュバスの双子姉妹、その妹である。姉に心酔しており、姉のために尽くす。姉のためもあるが、元々面倒見がよく細々としたことが好きなために主人公のレベリングの観察も自ら進んで行っている。ちなみにレベルはカンスト。様々なステータスが規格外。戦闘はもちろん。雄は絶対に勝てる余地なし。

小話（レベルサキュバスのレベルについて）：レディとセリアはお察しの通りとうにレベルはカンスト...これ以上レベルを吸収する必要がないように思われる。しかし実際はそうではない。レベルサキュバスはレベルを食して生きながらえる生き物。では外部からレベルを摂取しない状態が続くとどうなるであろうか。答えは**自身のレベルを消費してしまい勝手にレベルダウンを起こしてしまうのである**。それを防ぐためにはカンストしたといえど定期的にレベルを食さなくてはならないのである。レディとセリア両名のレベルがカンストしているにも関わらずレベルを欲し続けるのは単なる美食屋的発想だけでなくこうしたレベルサキュバス独自の制約が存在するからでもあるのだ。

セリア:

#### ステータス概要

しょく：サキュバス（レベルドレイン種）

レベル：99

HP：890736

MP：1000827

力：56790

すばやさ：94029

みのまもり：103762

たいりょく：124873

かしこさ：158390

うんのよさ：255

#### そうび

ぶき：えいごうえいくきごくべん（永劫永苦鬼獄鞭）

たて：なし

よろい：こわくこくてんこちょうのはごろも（蠱惑黒天胡蝶乃羽衣）

かぶと：ようまげんじょうしこうじょていのティアラ（妖魔幻嫩至高女帝乃冠）

主人公の飼主そして勇者をマゾ人形に仕立てあげたレベルサキュバスの双子姉妹、その姉である。細かいことが苦手、大雑把、がさつなところがある。そのような余裕はオーバースペックゆえか妹を頼っているからかはたまた両方か。もちろんレベルはカンスト。レベルサキュバス史上最高の能力値を誇る。豪胆なところがある故、死角があるように見えるが、見えるだけ。隙をついてもなお圧倒的な力で相手を屠り舐り優雅に壊し尽くす。魔王でさえもまともにやり合えば無事で済まないのは勿論、その命は保証できない。

小話（レベルサキュバスについて2）：上記のようにレディとセリアのステータスが尋常でないのは、本人の素材以上にレベルサキュバスとしての類まれなる素養のためである。

どういうことかと言えばレベルサキュバスはレベルと同時にその者のレベルアップに伴うステータスを取り込むことができる。しかしその量は極めて微量で通常個体であればレベルアップ分のうちせいぜい0.1%しか吸収できない。（ex.力が10上がるレベルを1つ吸った場合、力は0.1上昇する。）

そんな中、彼女ら姉妹は20%以上（レディが20%、セリアは23%程度と言われている。）を吸収できる。単純計算で200倍以上の効率のよさを誇る。これが彼女らの圧倒的な強さの理由である。

ちなみに運が他のステータスより見劣りするるのは、捕食者全員彼女らに出会った時点で運の尽きであるから。

小話（レディとセリア）：二人の名はPSのゲームFFTのチャプター3の終盤に現れるエロエロドスケベお姉さまアサシン姉妹から拝借。影縫いによるストップ、誘惑による混乱でこちらのユニットを行動不能にしたり、一撃必殺技で滅殺してきたりかなりの強敵。僕は子供の時に彼女たちに蹂躪されて軽度のマゾが確定的なマゾになってしまいました。ちなみにアルテマデーモンって言った人は月までぶっ飛ばします。殺された未来の痛み思い知ってください。

---

## 世界観（主にコイノミシステムについて）説明

---

### レベルと能力値：

この作品のレベルと能力値について一応の説明をしておく。今作ではレベルが上がると能力値と能力限界値が上昇する。能力値に関しては何も斬新なものではなく、往年のRPGにおいて、よく見られるジョブシステムに近く自身の職によく使うステータスが付与される。例えば、剣を装備したままレベルをあげれば剣の熟練度やそれに関係するステータスが向上するようになっている。そして実数値に加えて、その者の各ステータスの上限値も上乘せされる。これが能力限界値である。そしてこの値はジョブに直結するステータスのみならず相関の高いジョブのステータスの限界値も上昇させる。本編においては、マリアが遊び人から僧侶にジョブチェンジをしても僧侶として高い能力を有しているのはこのためである。

さらに言うならレベルサキュバスはレベルと共にこれらのステータスと期待値を吸収できる。そのために前述の小話の通り、レディとセリアの驚異的な吸収率のためにステータス実数値どちら尋常ならざる値になってしまっている。

---

### コイノミシステム：

この作品の肝の設定であるシステムをご紹介します。本編で紹介すると尺がエライことになり、冗長さに拍車がかかるので本編ではさわりの箇所を抽出することで概要だけ掴むだけに留めてある。

さてこのコイノミシステムを概要を一言で言うと、レベルサキュバスが考えた、安定的かつ高品質のレベルを大量生産するためのシステムである。

そしてさらにシステムの中身を簡潔に述べると、捕らえた人間を昏睡させ仮想現実を見せ、その仮想現実内でレベルをあげさせ、カンストしたところでレベルを収穫するというものだ。

以下このシステムのメリットについて述べると主に三つ存在する。

一つ目はなんといってもその**安全性**にある。レベルサキュバスの馳走であるレベルは無論高ければ高い程、量が多くなるのは勿論、一つ一つのレベルの脂のノリがよくなるとされている。（ポケモンの努力値に近いものだと思っていただけると分かりやすいのではないか。）

しかしその一方でレベルが高い分サキュバス側のリスクが高くなる、このシステムではそのリスクがあらかじめ取り除かれている。

というのも、仮想現実内で向上する能力値は現実世界と対応させないように設計されている。直感的に分かりやすい例を挙げれば、腕力についてはいくら仮想現実内で腕力を上げようと当の本体は一切体を動かしていないので上がるはずがない。

また魔法についても仮想現実と現実内とで発生原理を全く異なるものにして応用の効かないものになっている。そのため、仮想現実内で覚えた魔法や技スキルは一切使えないことになる。

それ以外にも言語（作品内では都合のため当然全て日本語にしてある。）や物理法則といった箇所まで可能な限り現実世界と対応しないようにすることで、レベルアップを可能な限り虚無にしている。

二つ目は**再生産が見込めること**だ。

通常一度レベルを奪われた者は精神に著しいダメージを受ける。それもそうであろう、今まで積み上げて来たものが圧倒言う間に溶けてなくなるのであるのだから。

そして奪われるレベルが高ければ高いほどそのダメージは大きくなり、大きくなるほど向上心や対抗心と言ったレベリングを理由づける感情が潰れてしまうのは想像に難くない。

それは即ち、同じ者からレベルを奪うことは困難であることを意味する。その点、このシステムには記憶領域をパーティションで区切る技術が使用されており、現実世界と仮想世界で用いる記憶を分離させている。これにより現実世界のことを仮想現実を持ち込むことはされず、その逆も起きないようにしている。

これにより現実世界の記憶考慮せず仮想現実へ飛ばすことができるので、たとえ現実世界内で深刻な精神ダメージを受けたとしても、ある程度は再利用が効く。しかしそれほど現状それほど多くは効かない[詳しくは小話（再利用価値の高さについて1）および（再利用価値の高さについて2）を参照。]

3つ目は**搾取レベルの高品質化**である。

従来レベルサキュバスは狩りによって冒険者を襲いレベルにありついてた。このような形式を取る以上、ありつけるレベルは出くわす冒険者依存となり非常にらつきが大きい。それが彼女らにとって大きな悩みの種であった。

このシステムでは仮想現実内では家畜たちにとって都合のよい現実を見せるので大方の人間たち個の理想像・英雄像を肥大化させつつ、そこにたどり着けるように設定されている。そして世界観の構成に用いられるのは人間が作り出したゲームや物語である。膨大な冒険譚を人工知能に学習させて自動で世界観やゲームクリアまでのフラグを生成している。つまりある者は口トの勇者として世界を救うことになるし、ある者は現代と中世と未来を行き来しながら世界を救うことになるし、ある者は魔女を倒す傭兵部隊を養成する学園にて青春を謳歌しながら世界を救うこともありうる。~~（最後のはレベリングとは縁が薄い作品なのでそれ以外の戦闘システムまで酷似してしまった場合はリセット対象であるが...）~~

ただしその性質故に、システムでのレベリングに適さない人間が存在する。とはいうものそれほど特殊な条件ではなく、不適格な人間は大きく二つに分類される。

一つは、破滅欲求の強い者や精神疾患を患っている者。

もう一つは、認知が通常の間と大きく乖離している者（サイコパスなど）。

以上の二種類である。これらの人間は都合のよい現実の終着点が自己の破滅もしくは自他含めた世界全体の崩壊、もしくはそれ以上のシステムでは補いきれない方向へと向かう傾向にあるために除外されてしまう。ゆえに家畜候補者はシステムに組み込まれる前に精神鑑定を受けさせられる。

以上本作の影の肝要素となるコイノミシステムの説明である。ちなみにこのシステムの名前にあるコイノミはkoinobiont（飼い殺し寄生）と故意の実（意図的にレベルを上げることが指す）に由来している。~~（今作の設定でこれが一番言いたかったやりたかった）~~

ちなみに本作のように全員が全員恋愛感情がモチベーションになるわけではないので恋の実ではないです。

小話（記憶領域パーティション制御技術について）：記憶領域パーティション制御技術はまだ未完全であり、無意識化...とりわけ睡眠状態では記憶のパーティションは不安定になってしまう。というのも人間にとって睡眠の役割の一つとして記憶の整理が行われているために、**下手に手を出すと記憶構造そのものに大きな支障が出てしまい最悪脳に大きなダメージを与えてしまうことになるからである**。この問題に対して、睡眠時間がなくすのではなく脳波操作によって睡眠時間を可能な限り少なくする施策が取られている。これにより睡眠によるロスをも15分程度に抑えることに成功している。さらにこの睡眠の問題として挙げられるのが、そのタイミングである。仮に敵前で睡眠を取られるとゲームオーバーまっしぐらである。（ゲームオーバーについては小話（ゲームオーバーについて）を参照されたし。）そこで主に二つの条件（時間帯、主人公の脳波や脈拍といった緊張状態）で睡眠タイミングが判断されている。

これにより大体の場合、仮想世界内で睡眠をしている時に実睡眠が済むのだが、どうしても誤差が生じてしまう。

ではなぜ、改善されず放置されているのは、気にしなくてもよい誤差だからである。

少なくとも戦闘時や一触即発の瞬間での誤作動は起きたことがなくゲームオーバーになることはありえない。その上、少なくとも仮想世界内の人間がこの睡眠の真実に至ることは不可能に近いために、改善のためにコストを支払う意味もないために放置されている。

長くなったが、本作の場合主人公がマリアの前で堂々と居眠りをしてしまうのはシステム側が勝手に睡眠を実行してしまうためである。

そして本編でセリアとレディ二人の会話が入り込んでいるのはこのパーティション技術の不完全さに由来している。

小話（主人公の睡眠について）：上の小話に関連して、現実世界での記憶が入り込む事象を伴う睡眠時にマリアの解除魔法が効かないことにも理由がある。**それは主人公が現実世界の人間としての睡眠を取っているからである**。先述の通り、コイノミシステムは魔法や物理法則など世界内の多くの変数が現実世界と異なるように設定されている。それと言うのも現実世界に可能な限り干渉しないようにするためである。なので現実世界での睡眠は解除できないのである。その一方でモンスターの攻撃による睡眠は仮想世界内での睡眠なので通常通り解除することができる。

小話（ゲームオーバーについて）：仮想現実内では仮想現実内での起床の瞬間がいわゆるオートセーブ箇所とされている。ゆえにゲームオーバーになるとそこまで巻き戻され、そこからゲームオーバー時の記憶や取得アイテム等々を消去された状態で再度出発する。つまりロールバックである。しかしただ一つ、レベルだけはゲームオーバー時状態で維持される。ただしレベルだけで、その間に取得した技や呪文は記憶が消去されているためリスポーン時は使用不可。そして多くの場合、戦闘中や次のレベルアップ時に再取得することになる。

小話（再利用価値の高さについて1）：コイノミシステムにおいて家畜は、レベルの上がりやすさ以上に再利用性が重視される。なぜなら **このシステムは従来再利用回数0回だったものを幾ばくか再利用可能にするためのものに過ぎないからだ**。というのも収穫のため現実世界に引き戻すのだが、この時の心的ショックが回数を増すごとに指数関数的に増加してしまうのである。結果的にそれに耐えきれず数回の再利用に多くの家畜の精神は崩壊してしまう。一般的な家畜では平均5回程度で壊れてしまうとされる。故に主人公のように再利用性の見込みが高い家畜は重宝されているのだ。

小話（再利用価値の高さについて2）：上の再利用に関してなぜ再利用性が重宝されているかももう少し仔細に説明しておく。システム設計当初、記憶の取扱について四つの案が出された。一つは仮想現実内の記憶のみ消去するもの。一つはレベル吸収後に現実世界の記憶を消去するもの。一つは仮想環境の記憶を残すもの。最後に仮想世界と現実世界の記憶両方を消すこと。パーティション技術が確立されていたために、パーティション毎の記憶を消去の実装は難しくなかった。が結果的に現在使用されているのは一つ目の仮想現実内のみの記憶を消去するである。なぜ他の案ではダメなのか以下で説明していく。

まず現実世界の記憶消去する最大のデメリットは、**システムがうまく機能せずレベリングに膨大な時間を要してしまうからだ**。その差は歴然で現実の記憶ありだと平均90日で終わるレベリングが早くても5年かかってしまうとされる。なぜここまでの差がついてしまうかと言えば、一つは **このシステムは効率化のために家畜の欲を汲み取り世界を構築しているために記憶の消失...それは即ち欲も消してしまうことに他ならないからである**。まずこれでレベリングに適切な世界の構成は困難になる。仮想現実の記憶を残し、同じ世界を再利用することも無意味で、それは所詮記憶消去前の欲であるからそれが記憶のない人間にそぐわないものであるか想像に難くないであろう。更にもう一つ理由を付け加えると、**現実世界の記憶をなくした状態で送ることは全くの白痴で送りだされるのに等しく仮想現実内での常識を学ぶところから始めなくてはならないからである**。

仮想現実の記憶を再利用する場合はむしろこちらの方が厄介になる。というのも、コスト下の状態とは即ち、仮想現実世界で大なり小なり地位を築き終えてしまっているのだ。これを端的に表現するのであれば **強くてニューゲームならぬ弱くてラストゲーム** と言ったところである。様々な状態が考えら

れるがラスボス一步手前に放り出されることもあり得る。そこから白痴の状態になれば失墜は火を見るよりも明らかである。その結果、仮想現実内で大きな心的外傷を負いその結果システムにそぐわない不良品になってしまうのだ。

しかし一方で白痴の状態で送り出されるのは記憶のありなしに限らず一度レベル0に墮とされた人間であれば変わらないのではないかと思うが実際はそうではない。事実今作のep5でもレベル0で再度送りだされているが現行のシステムでは仮想現実の生成の段階で最低限活動できるように現実世界の記憶を基にその世界の言語や常識を作りだしている。今作で主人公の初期レベルが5なのは現実世界の記憶、知能を基に仮想現実内で識字やコミュニケーションができる最低限の状態で送り出されているわけだ。なのでep5で0にされたレベルだが、その後システムによって記憶を掘り起こされた結果、再度仮想現実に行く際には再びレベル5前後に戻されている。少し脱線したが、**要するに現実世界の記憶を消すことはそれに依存している仮想現実の生成、および送り出された以後の活動に深刻なロスを生じさせてしまうために却下されたのである。**

ちなみに現在レベルサキュバス界限で熱心に研究が取り組まれているのは記憶のバックアップである。仮想現実へ飛ばす前の記憶を保存し、レベル吸収後に再度仮想現実へ送る際に保存した記憶を植え込むという技術である。これについては、まだ問題があり、記憶の保存に関しては問題ないのだが、再度植え込む際に時間の経過によって脳の構造に変化しているために、そのまま記憶を植え込むと齟齬が発生してしまうのである。また、たまたまうまくいった例に関してもその手法にて再度カンストさせたレベルの味はお世辞にも美味とはかけ離れたものになっており、原因は不明。実用化はまだ先のようである。

小話（現実世界からの干渉）：本作のep2,3冒頭において、サキュバス姉妹が育成中の主人公を観察している描写がある。コイノミシステムでは、家畜が見ている世界を映像出力することができる。また現実世界から仮想世界に対してできることとして、本作では描写がないが現実世界から難易度調整や主人公の目の前の人間を操ることで、スムーズな進行をすることができるが、基本的にシステムが作る世界は難易度低く設定されているので本来の使われ方はされない。その代わりに無茶苦茶な難易度にして家畜を虐待して苦しむ様を楽しむ使い方がされている。

小話（主人公の家畜適正について）：今作の主人公は精神鑑定の結果、高いマゾヒズムを有しながら、高い破滅願望も有していると判断された。後者だけであれば家畜対象にすらならないのだが、前者があると話は別である。**それはつまり、この場合の破滅願望とは上位者、とりわけ異性の上位者に対する被支配欲が究極的な欲望として発現しているものに他ならないからだ。**それは、破滅願望故に粗雑に扱えばシステムにそぐわない不良品の烙印を押される一方、**仮に絶対的な支配者の下で飼われることになれば、彼自身のマゾヒズムの欲求により、破滅願望は主人のための自己破滅願望に変貌、究極的**

な献身へと昇華し、システムにとって最高の適合品になることを意味している。具体的にどうなるかと言えば、レベリング理由が飼い主を満たすことになるために、構成される世界がレベリングに特化した世界（例えば出現モンスターが全てメタル系になったり、ドロップアイテムがふしぎな **あめ** だらけの世界になるなどである。今作に限定して言えばマリアの能力の枷となっているインターバルの制限がなくなる。）になるだけでなく、レベルを奪われることが一種のご褒美となり心的ショックどころか幸福になるために、先述の再利用の回数が飛躍的に伸びる。これが主人公が上級用の家畜に指定された理由であり、レディが彼を買い取った理由である。

---

## おまけ予定だったもの：レベルドレインRTA (Glitchless 100 %) タイム（）

書くには書きましたがどこがどうというわけではないですがぱっとしなかったのでボツです。それを載せんのはどうよ？と思いましたが、次なる走者が現れる可能性を考えチャートだけ載せておきます。

---

99からの数え下ろしで展開

条件付けレベルダウン（マゾと呼ぶ）

レ⇒ごきげんよう♥家畜ちゃん♥

セ⇒ごきげんよう♥家畜ちゃん♥

レ⇒ママのためにたレベルを溜めてきてきれまちたねー♥

セ⇒ママたちに食べられるためにせっせとレベリングお疲れ様でちた♥

レ⇒周回するたびにお早くなってきましたわね♥いいでちゅわよー♥

セ⇒それだけママたちに食べられたいのでありましょうか♥

レ⇒ではお望み通りさっさと食してさしあげます♥

セ⇒99から0までぜーんぶママたちの胃袋に納めてさしあげますわ♥

感謝ちまちょうねー♥

レ⇒そうですわね♥挨拶がてら♥

レ⇒ありがとうございますまーす♥っと

セ⇒ありがとうございますまーす♥って

レ⇒くすっ♥あははははははははは♥

セ⇒くすっ♥あははははははははは♥

レ⇒ほんと愉快ですわ♥

セ⇒ええ♥家畜の鑑ですわね♥ママたちも嬉しいですわ♥これはご褒美です♥

レ⇒よかったですわね♥口をお開けになりなさい♥お姉さまからの♥

セ⇒熱いベーゼですわ♥

レ⇒でちゅから♥

セ⇒でちゅから♥

レ⇒逃げちゃイ・ヤ♥

セ⇒逃げちゃダ・メ♥

セ⇒ああむ♥じゅる♥じゅるるるう♥ちゅぽ♥ちゅぽ♥ちゅうう♥っぱ♥(激しくベロチュー)

んんっ♥ちゅっ♥ぷはっ♥

ああ♥うっま♥これ♥特別に今のはレベルを吸わないであげましたわ♥

レ⇒実はいつものように吸っても面白みに欠けるので今日はゲーム感覚でお食事させていただきますわ♥

セ⇒そのために今のベーゼに魔力で細工させていただきましたわ♥

レ⇒今からある単語を言われるたびに一つずつ貴方は私たちのいずれかその単語を言った者にレベルを奪われていく♥

セ⇒二人が同時で言えば二つレベルが吸われますわ♥

レ⇒そしてママたちが貴方のレベルを全て吸い終わるまで貴方に手淫の許可をいたします♥

セ⇒くふふ♥ママたちがレベルを吸い終わるまでにお射精できまぢゅでちょうか♥

レ⇒それでは気になるレベルを吸われてしまうキーワードをおちえてあげますわ♥

セ⇒そ♥

レ⇒れ♥

レ⇒はあ♥

セ⇒はあ♥

レ⇒マ・ソ♥

セ⇒マ・ソ♥

レ⇒マツソ♥

セ⇒マツソ♥

レ⇒マーソ♥

セ⇒マーソ♥

レ⇒ですわ♥

セ⇒ですわあ♥

レ⇒ママたちがマ・ソ♥と言うたびに

セ⇒マソの貴方からレベルが奪われていく♥

レ⇒分かりましたか？マソちゃん♥

セ⇒分かりましたか？マソちゃん♥

レ⇒ちなみに今のでレベルを10ほど頂きましたわ♥

セ⇒相変わらず大変美味ですわね♥家畜のレベル♥

レ⇒ええ♥ほんと♥他の家畜のレベルが食べられなくなってしまうますわ♥さて♥マゾさん♥早くちんちんに手をかけないと終わってしまいますわよ♥

セ⇒あらあら♥既に勃起しているなんてほんとどうしようもないマゾですわね♥貴方♥

レ⇒では準備はできましたでしょうか♥

セ⇒できなくてもレベルはしっかり頂きますわよ♥

レ⇒はーい♥よーいスタート♥

セ⇒はーい♥よーいスタート♥

ではまず、基本的な形でえ♥

レ⇒まーぞ♥

セ⇒まーぞ♥

レ⇒まーぞ♥

セ⇒まーぞ♥

レ⇒まー♥

セ⇒ぞ♥

セ⇒まー♥

レ⇒ぞ♥

セ⇒まぞまぞまぞ♥

レ⇒ぞまぞまぞま♥

セ⇒まーぞまーぞまーぞ♥

レ⇒まーぞまーぞまーぞ♥

レ⇒今ので累計30回♥さて準備運動はここまでですわ♥

セ⇒そして同時に私たちは飽きましたわ♥

レ⇒マゾと申すのは♥

セ⇒マゾとのたまうのは♥

レ⇒ですので貴方にかけた魔法の裏技を利用いたしますわ♥

セ⇒貴方にかけた魔法を簡潔に述べれば、特定の単語を言った者にレベルを分け与えるもの♥

レ⇒では貴方自身がこの単語を言えばどうなるかお分かりになるでしょうか？

セ⇒家畜には回答権すら惜しいですので

レ⇒答えを申しますと♥

レ⇒く

セ⇒リ

レ⇒こ

セ⇒し

レ⇒されてしまいますの♥

セ⇒されてしまいますわ♥

レ⇒貴方がマゾと申せば♥次に他者がマゾと言うまでレベルは維持され♥

セ⇒次に言った者に言った分のレベルが分け与えられる

レ⇒さらに♥同時に言った者に対して同じ分だけ分け与えられる♥

セ⇒つまり貴方がマゾと言った分だけ♥

レ⇒ママたちはマゾと言わずに済む♥

セ⇒よかったですわね♥ママたちの役にたてまぢゅよー♥

レ⇒さっそく手始めに5回ご自分のお口で言ってみましょうか♥

レ⇒マ・ゾと♥

セ⇒マ・ゾと♥

レ⇒さんはい♥

セ⇒さんはい♥

レ⇒1

セ⇒2

レ⇒3

セ⇒4

レ⇒5

セ⇒5

レ⇒よく言えました♥では♥

レ⇒いただきまーす♥

セ⇒いただきまーす♥

レ⇒マーーーーゾ♥

セ⇒マーーーーゾ♥

セ⇒おっほ♥

レ⇒あーんっ♥

セ⇒一気に多幸福感がこみ上げ♥熱で体が蕩けてしまいますわ♥

レ⇒今ので繰り越しの10とママたちの言った分の合計12レベ♥

大変美味しゅうございましたわ♥どんどんいきますわよ♥次は10回♥

レ⇒さんはい♥

セ⇒さんはい♥

セ⇒1

レ⇒2

セ⇒3

レ⇒4

セ⇒5もっと心を込めて言ってくださいまし♥

レ⇒6私たちに食べられたい気持ちをその二文字に表すのです♥

セ⇒7

レ⇒8

セ⇒9

レ⇒10

セ⇒10

セ⇒たっぷり溜まったレベル♥

レ⇒いただきますわ♥

レ⇒せーの♥まーだ♥

セ⇒せーの♥まーだ♥

セ⇒くっwwwやっぱりひっかかりましたわ♥

レ⇒くふふw私たちが言うのを今か今かと待つ顔、滑稽ですわねお姉さま♥

セ⇒家畜さん♥まーだ♥ですわよ♥

レ⇒「ぞ」ではありませんわ♥「だ」ですわよ♥

セ⇒まだ食べてはあげませんわ♥

レ⇒代わりにもう10回言っていたきますわ♥

レ⇒さんはい♥

セ⇒さんはい♥

セ⇒1♥まーだ♥

レ⇒2♥まーだ♥

セ⇒3♥まだまだですわぁ♥

レ⇒4♥まだ♥まだ♥まだ♥まだ♥むぁだ♥でしてよ♥

セ⇒5♥むぁ♥っだ♥

レ⇒6♥まぁ♥あふっ♥だっ♥

セ⇒7♥まーーー♥っだ♥

レ⇒8♥まーーー♥っだ♥

セ⇒9♥(囁く)まぁだっ♥

レ⇒10♥

セ⇒10♥

レ⇒これで溜まった回数20回

セ⇒私たちがあの言葉を言えば計42のレベルを私たちに差し出す♥  
あれだけあったレベルの半分近くを一度にママたちにあげられるんでちゅよ〜♥

レ⇒うれちいでちゅか〜♥そうでちゅか〜♥

ところで...あの言葉ってなんでしたっけ♥お姉さま♥

セ⇒あの言葉はあの言葉ですわ♥

「マ」から始まって「ゾ」で終わる言葉ですわ♥

ですが...あら？私としたことがど忘れしてしまいましたわぁ♥

レ⇒ですがいいですわよねえ♥

ママたちが言わなければ何も奪われないのですからぁ♥

セ⇒名残おいしいですが、今日はこの辺にいたしましょうか♥レディ♥  
システムの準備を、仮想世界に送り返してさしあげましょう♥

レ⇒それでは家畜ちゃん帰る準備ちまちょうねー♥

セ⇒あら♥どうちまちたかー♥

もしかしてママたちに言ってほしいのでありましょうか♥

レ⇒ママたちにレベルを奪ってほしいのでありましょうかぁ♥

セ⇒でしらぁ♥ママたちに教えていただけますでしょうか♥

レ⇒「マ」から始まってえ♥

セ⇒「ゾ」で終わるこ・と・ば♥

レ⇒さんはい♥

セ⇒さんはい♥

レ⇒お姉さまぁ♥今の聞こえましたかぁ♥

セ⇒いえ全く聞こえませんでしたわぁ♥

声が小さいですわぁ♥

レ⇒ママたちに聞こえるようにもう一度、言えまぢゅよねえ♥

セ⇒もう一度♥さんはい♥

レ⇒あーそういう言葉でしたわねえ♥

セ⇒そんなに食べて欲しいのでしたら食してさしあげましょかねえ♥レディ♥

レ⇒ええ♥ママたちに美味しくレベルを食べてほちいようでぢゅからねえ♥ですが家畜ちゃん♥ご自分の残りのレベルはお分かりでぢゅかぁ♥

セ⇒おちんちん気持ちよくちてママたちに食べられることばかりのお婆かな脳みそでは計算できないようでぢゅからママたちがおちえてさしあげまぢゅわ♥

レ⇒家畜ちゃんの残りのレベルは残り50♥

セ⇒そして家畜ちゃんが自らのお口で繰り越したレベルは現在43♥

レ⇒これにママたちが同時に先ほどの単語を言うので二つ足されて46♥

セ⇒さて家畜ちゃーん♥これくらいのひきざんはできまぢゅよねー？

レ⇒50引く46はいくぢゅでぢゅかー♥

レ⇒よくできまちたー♥

セ⇒よくできまちたー♥

レ⇒4でぢゅよねー♥

レ⇒では次の問題でぢゅがー♥

レ⇒あと4回もママたちにそれを言わせる気でぢゅかー♥

セ⇒あと4回もママたちにそれを言わせる気でぢゅかー♥

レ⇒だったら言え♥

セ⇒だったら言え♥

レ⇒もっと言い続けろ♥

セ⇒まだまだですわ♥

レベルなんて関係ありませんわ♥

ママたちがあの言う単語言うまで言い続けなさい♥

レ⇒まだまだまだでぢゅよー♥ちこちこしながら言ってくだちゃーい♥

セ⇒止めたら捨てますわよ♥

レ⇒家畜なんて吐いて捨てるほどおりますし♥

セ⇒バカな家畜が一匹いなくなったところでなんとも思いませんわよ♥

レ⇒ママたちと一緒にいたかったらもっといいまちょうねー♥

セ⇒あははははwなんと憐れ♥なんと浅ましいことありましよう♥  
劣等敗北種族たる人間にふさわしい見事なまぬけさですわ♥

レ⇒必死♥頑張ってくださいーい♥まだですわ♥まーだまだ言えまぢゅよねえ♥

セ⇒腰も振ってみまちょうか♥へこへこ♥より家畜らしく惨めに振りまちょうねー♥

レ⇒ママたちにあの言葉を言ってもらえるようにMアピールにちまちょうねー♥

セ⇒その単語にぴったりなMな家畜じゃないと言ってあげまぢゅんからねー♥

レ⇒乳首もこねくり回して射精を請うのです♥

セ⇒おちんぼ振り回して射精を請いなさい♥

レ⇒まーだ♥

セ⇒まーだ♥

レ⇒まーだでぢゅよおー♥

セ⇒まーだでぢゅよおー♥

レ⇒まーだ♥

セ⇒まーだ♥

レ⇒まーだでぢゅよおー♥

セ⇒まーだでぢゅよおー♥

レ⇒まーだ♥

セ⇒まーだ♥

レ⇒よくできまちたー♥

セ⇒よくできまちたー♥

レ⇒もういいでぢゅよおー♥

セ⇒もういいでぢゅよおー♥

レ⇒お待ちかねの言葉♥

セ⇒言ってあげますわ♥

レ⇒そしてレベルを全部

セ⇒吸って差し上げますわ♥

レ⇒せーの♥マ・ゾ♥

セ⇒せーの♥マ・ゾ♥

(射精)

レ⇒あっ♥ああん♥おっ♥んっ♥まああ♥ああ♥はあ♥っ♥脳があ♥あつつ♥とろける  
うう♥

セ⇒おっ♥ほおおん♥いっ♥くううう♥

全身があ♥うっ♥はあん♥とろけるうあ♥っ♥はああん♥

レ⇒はあはあ♥はあ♥まだ体がイってますわあ♥うふっ♥

セ⇒んっ♥はあっ♥これだからやめられませんわあ♥レベルの一気に♥食いい♥おふっ  
♥

レ⇒はあ♥くっ♥この快楽物質がとめどなく脳からあふれ出る感覚う♥何度やっても  
よいものですわね♥お姉さま♥はっ♥完食したご感触はいかがでしょうあ♥

セ⇒ええ♥レディ言う通りい♥あっ♥この至上の美味を全身で堪能する感覚う♥ふっ♥  
ふう♥病みつきになりますわあ♥

レ⇒うふふ♥足をおっぴろげて汁を出して♥ひくひく♥

家畜さんも気持ちいいよさそうにしておりますわね♥

セ⇒無様に無駄な子種を出して果てておりますわね♥

知能の欠片も感じられない姿♥

やっぱり家畜ですわね♥

レ⇒家畜としては模範的な姿ですし、

更に今回、私たちに一気にレベルを吸われる快楽を知ってしまったことで、

より一層私たちに食われるためにレベリングに精を出し、

理想的な家畜へなりますでしょう♥

セ⇒今より早くなるとは大層よくできたマゾ家畜ですわね♥

ママだいちゅきでちゅよー♥

レ⇒もちろん家畜としてでちゅけどねー♥

セ⇒ですからまたレベルをいっぱいあげてママにくだちいねー♥

レ⇒待ってまちゅわよ♥家畜ちゃん♥

レ⇒(耳元にキス)ちゅっ♥ごちそうさま♥

セ⇒(耳元にキス)ちゅっ♥ごちそうさま♥

